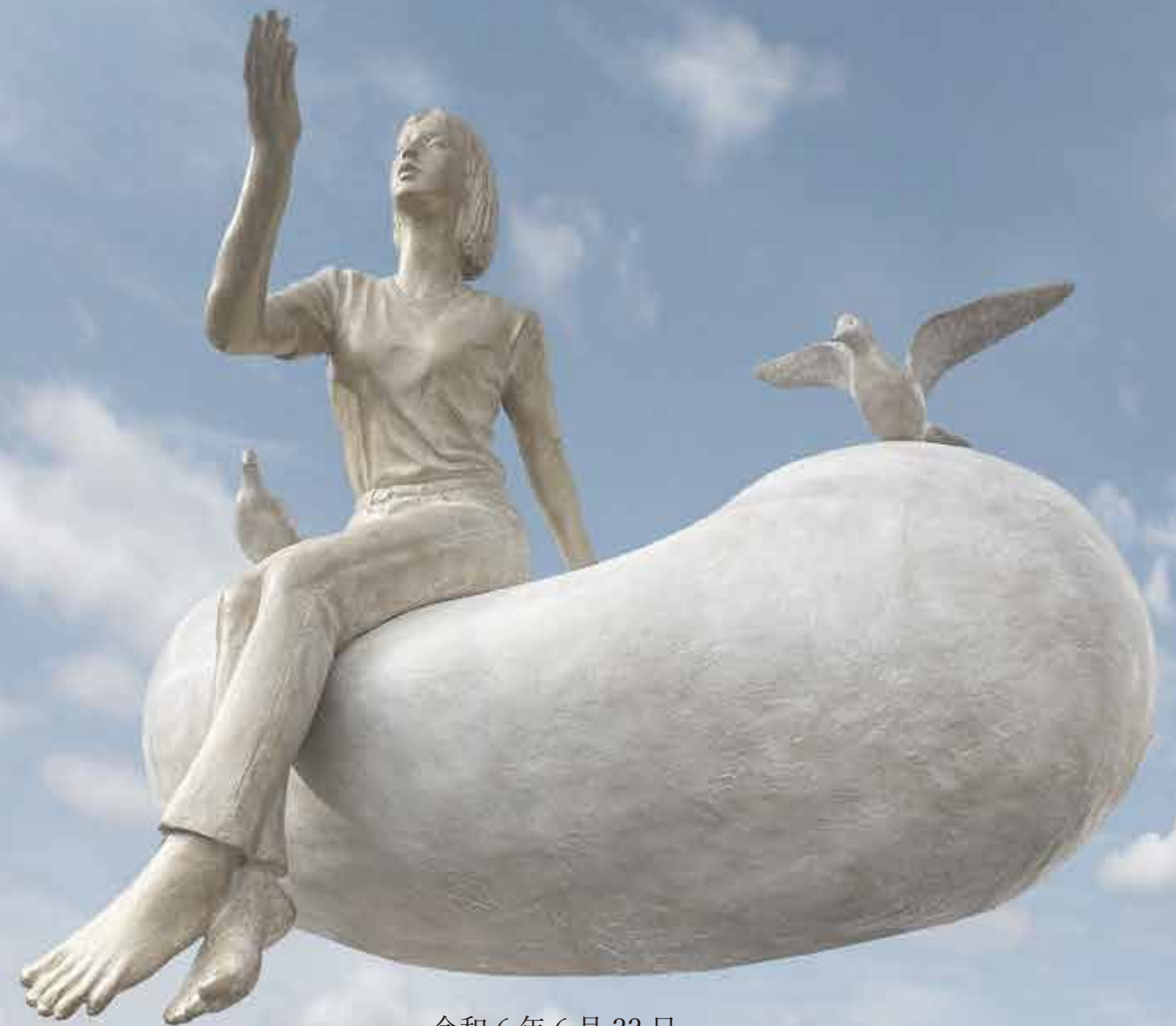


飲酒運転撲滅モニュメント建立記念式典
～九州大学国際村から願いを込めて～

飲酒運転撲滅モニュメント建立記念式典
実行委員会

- 会 長 月形 祐二（糸島市長）
副会長 一尾 泰嗣（セトル株式会社 代表取締役社長）
梶原 浩幸（糸島警察署 署長）
谷口 一成（糸島市交通安全協会 会長）
重松 偉走（糸島市地域交通安全活動推進協議会 会長）
大庭 茂彌（福岡県飲酒運転撲滅活動アドバイザー）
山本美也子（NPO法人はあとスペース 理事長）



令和6年6月22日
グローバルホテル糸島 コンベンションホール

式次第

1. 開会の辞

2. 飲酒運転事故被害者へ黙祷

3. 主催者挨拶

実行委員会 会長

糸島市長 月形 祐二

実行委員会 副会長

セトル株式会社

代表取締役社長 一尾 泰嗣

4. 来賓挨拶

福岡県副知事 生嶋亮介 様

福岡県警察本部長 岩下 剛 様

福岡県議会議長 香原勝司 様

NPO 法人いのちのミュージアム

代表理事 鈴木共子 様

5. 飲酒運転撲滅宣言

九州大学工学部 島 一輝 様

九州大学理学部 平 蒔温 様

6. モニュメント除幕

彫刻家 片山博詞 様 挨拶

7. 記念講演

福岡県飲酒運転撲滅活動アドバイザー
大庭 茂 彌

NPO 法人はあとスペース

理事長 山本 美也子

8. 閉会の辞



糸島市長

月形 祐二



セトル株式会社
代表取締役社長

一尾 泰嗣

このたびは、飲酒運転撲滅モニュメント記念式典の挙行に際し、福岡県、県警本部、九州大学等々、たくさんの関係各位の皆様の賛同を得て、この記念式典を開催できますことにたいへん感謝申し上げます。

さて、このモニュメントは、飲酒運転事故に巻き込まれて亡くなられた、糸島市泊出身の大庭三弥子さんが、飲酒運転撲滅を象徴するモチーフとなっています。父である大庭茂彌さんは、各地で飲酒運転撲滅に向けた啓発活動を実施しながら、被害者遺族とともに亡くなられた方々を思い、このモニュメントが建立される地にひまわりを植え続けてこられました。この取組に共感したセトル株式会社の協力により、建立されました。

平成11年に大庭三弥子さんが亡くなられて以降も、悲惨な飲酒運転事故は発生しています。近年は、飲酒運転検挙者数も増加傾向にあり、飲酒運転撲滅には至っていません。

飲酒運転撲滅のためには、飲酒運転事故の悲惨さ、亡くなられた方や残された家族の悲しさを一人でも多くの方が自分事として心にとどめていただくことがたいせつだと思っています。

本市におきましても、引き続き、県、警察、交通安全協会等と連携して、「飲酒運転は絶対しない、させない、許さない、そして見逃さない」を合言葉に、飲酒運転のない社会の実現に取り組んでまいります。また、飲酒運転撲滅運動を展開する関係各位におかれましては、引き続き、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

飲酒運転が厳罰化されてからも悲惨な事故は後を絶ちません。糸島市在住の大庭茂彌氏も25年前、当時21歳だった娘さんを飲酒運転事故で亡くされました。以来、大庭氏は飲酒運転撲滅活動に取り組み、被害者遺族とともに亡くなった方々を思い、ひまわりの花を植え続けていらっしやいます。黙々と花を植えられる大庭さんの姿を拝見する度に胸が締めつけられるようで、飲酒運転事故は決して他人事ではないと痛感するばかりでした。

飲酒運転は極めて悪質、危険な犯罪です。飲酒運転は絶対にしない、させないという強い意志を持ち、根絶しなければなりません。しかし、人々の記憶は時間とともに風化します。語り継ぐ人がいなければ忘れられてしまいます。

セトル株式会社では飲酒運転撲滅への強い決意を表明するとともに、命の尊さ、つながりの大切さを共有できる社会の実現をめざし、糸島市泊地区・九州大学国際村交差点に面する弊社敷地の一角に飲酒運転撲滅モニュメントを設置いたしました。飲酒運転事故の悲劇を繰り返さないために大切なのは、悲劇の記憶を忘れることなく見える形で伝え続け、若い世代へとつないでいくことにあります。

飲酒運転撲滅モニュメントがめざすのは、人々の心を照らし、迷うことなく行くべき道を示す灯台のような存在、命を尊ぶ地域の宝のような場所になることです。亡くなった方の生きた証に触れ、命の大切さを感じ、その思いをつなぐことで、飲酒運転による被害者も加害者もゼロになる日が必ずやって来ると信じています。



NPO 法人いのちのミュージアム
代表理事
鈴木 共子

大庭三弥子さん、江角真理子さん、大谷知子さんが飲酒運転の暴走車の犠牲となってから約4分の1世紀の歳月が流れました。

彼女たち事故の半年後に私の一人息子もまた飲酒運転の犠牲となりました。当時は飲酒運転に対する刑罰が非常に軽く、人の命が軽んじられていたのですが、当事者たちが立ち上がり飲酒運転を始め悪質なドライバーへの厳罰を求めての署名活動をしたのです。その時に三人の家族と出会い、その後「生命のメッセージ展」で「メッセンジャー」と呼ばれる人型パネルとなった三弥子さん、真理子さん、知子さんを通して親交を深めました。

「生命のメッセージ展」とは、事件や事故等で理不尽に命を奪われた犠牲者が主役の展覧会です。犠牲者の等身大人型パネルに故人の写真、事件事故の概要・遺族の想いが綴られています。足元には生前履いていた靴が置かれ、事件や事故が「他人事」ではないということと、「命の大切さ」を伝え、全国巡回展をしているのです。

大庭氏は地元で他のご遺族と開催した「生命のメッセージ展」を機に小規模な「生命のメッセージ展」を展開されています。と同時に地元の皆様と共に「ひまわりの種まき」活動もされているのです。この度のモニュメントはそのようなつながりの中から実現されたと聞きました。三弥子さん、真理子さん、知子さんだけでなく「交通事故」で命を奪われた犠牲者たちへの鎮魂でもあるのでしょう。

銘板には「いのちはかがやきつながる 君たちを忘れない」と表記されていますが、「生命のメッセージ展」もまた「つながれ つながれ いのち」を掲げています。「つながる」ことの意味に改めて想いを馳せています。



福岡県飲酒運転撲滅活動アドバイザー
大庭 茂彌

一尾さんご夫妻にはモニュメント建造有難うございます。

又、片山さんには素晴らしいモニュメントを造っていただき、有難うございます。

娘達をなくして今年の12月で25年になり、あつという間でした。

今日まで色々な人達に支えられてきました。

当初はなんで…なんで娘達が飲酒運転の被害に、それも3人も…と諦められない苦悩の日々でした。

2001年、同じ遺族の江角さんから【生命のメッセージ展】の参加、同年飲酒運転事故の法改正の署名参加の誘い、同年11月法律改正、特に7月静岡県浜松市での【生命のメッセージ展】の参加が私にとって大きな転機となり、いつの日か福岡でのメッセージ展の開催を心に誓いました。

2007年10月には多くの人の協力、特に前原小学校や子供達の参加で【生命のメッセージ展】の開催をすることができました。たくさんの方に来場していただき、生命の尊さを感じていただけたのではないかと思います。

そして県警支援室の依頼で中学や高校での「生命の大切さを学ぶ教室」の講演活動、山本美也子さんとの出会いで、県での飲酒運転撲滅条例、ひまわり畑で遺族との交流活動、どれも支えられての活動です。

高校生から「結婚して子供ができれば子供に伝えます。」「警察官になって取り締まります。」と言ってもらい、幸袋中学校の生徒さんからは、活動の手助けをしたいとの申し出がありました。

娘達は亡くなってしまいましたが、「生命はつながる・つなげる」活動を続けていくことが娘達の死を無駄にしない、風化させないことです。

娘達は風によって全国に「生命の大切さ」を伝えていきます。

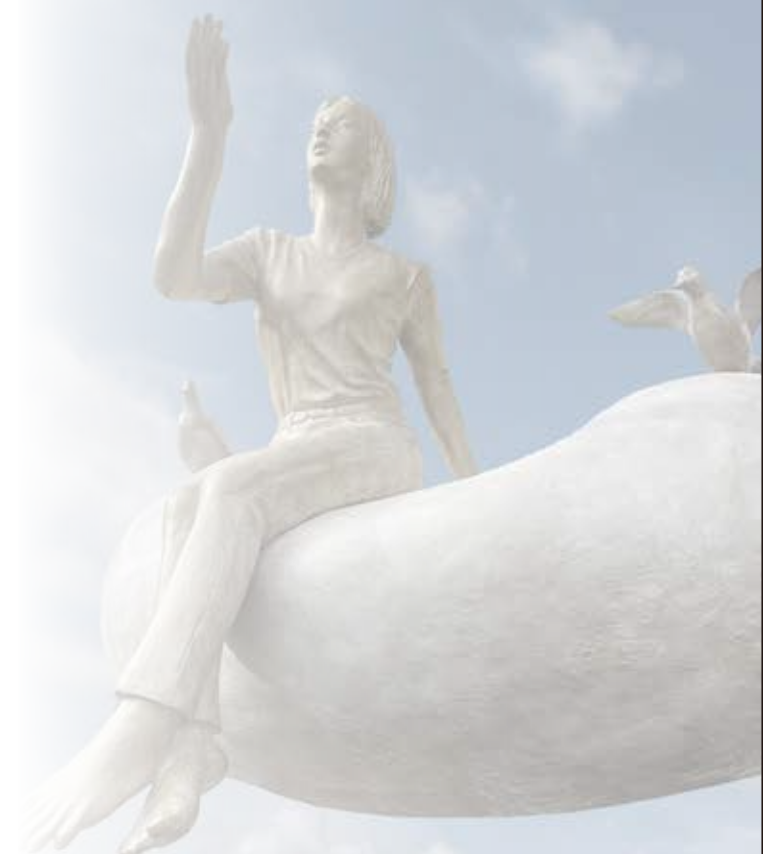


NPO 法人はあとスペース
理事長
山本美也子

この度は糸島の自然豊かな素晴らしい場所に「九州大学国際村 飲酒運転撲滅モニュメント」を設置頂き飲酒運転被害者遺族として心から感謝申し上げます。そして、ご尽力頂きましたセトル株式会社の一尾泰嗣社長をはじめ、彫刻家の片山博詞先生、糸島市役所、全ての皆様に御礼申し上げます。また、福岡県「飲酒運転撲滅運動を推進に関する条例」に基づき服部県知事を先頭に県民一丸となって飲酒運転根絶への機運が高まりつつあることも大変心強く感じております。我が家の長男の事故から13年。遺族の先輩である大庭茂彌様には公私ともに大変お世話になっております。筆舌し難い悲しみに寄り添って支えて頂きました。「ひまわりを植える遺族の会」も大庭さんが「花を育てると元気になるよ。」そんな一言から始まり10年になります。

今回モニュメントになった柴犬のこゆきちゃんは、長男と大変仲良しでした。長男が亡くなった後、お仏壇の前で長男の帰りを待つこゆきちゃんの写真が話題となり、CMや写真集にもなりました。モニュメントになる事が決定したときは、生前長男と一緒にこゆきちゃんの散歩に行っていた同級生も喜んでおりました。CM制作のきっかけを頂いた当時福岡保護観察の荒木様や、制作を担当した服部正典様、また現在FM福岡でご活躍の愛智望美様には中学校の同級生という御縁でナレーションをお願いしました。この場をお借りし御礼申し上げます。

このモニュメントに込めた思いは、飲酒運転がこの世の中からなくなる社会を目指すことです。たくさんの方の生命の犠牲が教えてくれた、その思いを後世に伝えゆくモニュメントと共にこれからも頑張っ参ります。



モニュメント建設プロセス

■基本構想：2022年1月～2023年10月



基本構想スケッチ・コンセプト模型

■原型石膏型取り・着色・全体模型：2024年1月～3月



モニュメント原型石膏型取り

原型着色

設計模型

■実施設計・現場検証：2024年2月～2024年4月



設計図・木ルーバー検証・照明シミュレーション

モニュメント原型による設置位置検証

■工事・モニュメント工場制作：2024年4月～6月



外構工事・ひまわり苗植え

腰掛け石制作・モニュメント工場制作：鋳造・溶接・着色・現場設置

■モニュメント原型制作：2023年11～12月



モニュメント原型制作

モニュメント「いのちは輝き、つながる」制作にあたって

今回、このプロジェクトに関わらせていただいたことに深謝申し上げます。

お話をいただいた当初、この重く大切なテーマをどう表現したらよいか構想がまとまりませんでした。そこで、大庭茂彌様ご夫妻と山本美也子様にお話をうかがう機会をいただき、飲酒運転ゼロの先にある、「いのちが守られ人間の尊厳が大切にされる世の中になってほしい」という思いをお聴きしたことでイメージが湧き上がり、その場で「いのちの輝きやつながり」をテーマにしたモニュメント空間を創ることをご提案させていただきました。

大庭様からは、三弥さんがバスケットボール部に所属し活躍されていたことや、自然を生かした公園づくりに関わる夢があったことなどのお話から活動的で清々しい姿が思い浮かびました。そして「『お父さんがんばってる?』と、娘がいつも天から声をかけてくれているように感じる」とお聴きし、モニュメントの具体的なイメージが浮かび上がってきました。タンポポの種を吹いている三弥さんの写真などをもとに、右手を差し出し、何か与えているようでもあり、受け取っているようにも感じられる三弥さんの姿にし、左手には私にとって「希望」の象徴である林檎を持たせていただきました。また、同じく亡くなられたご友人のいのちを二羽の鳩に託すことにしました。

山本様からは、息子さんの愛犬こゆきちゃんがご仏前からいつまでも離れなかったことをうかがい、こゆきちゃんにもひと役担ってもらうことにしました。背景は、糸島の自然の美しさを表現するために山並みを模した木製フェンスで囲うことにし、了解をいただきました。

制作中、常に気に掛かっていた問いがありました。それは飲酒運転犯罪の罪の深さ、ご家族の悲しみを表現しないでいいのか、という問いです。当事者でない私には想像も及ばないことではありますが大庭様にそのことを打ち明けると、「それは深く考えなくていいよ。」とおっしゃいました。加害者に対する心の内を語られない姿に頭が下がりました。

表現にあたっては照明デザイナーの松下美紀様、素敵なひまわりパネルをつくっていただいたMY S A加藤美香様、ウッドフェンスのデザインや全体の管理をしていただいた建築家の坂原祐樹様をはじめ多くの職人さんのお支えにより、当初の想像を超えた空間になりました。感謝致します。

このモニュメントは設置して終わるのではなく、地域の中で生き続けることに意味があると思います。左手にある安山岩の腰掛け石は磨き上げの途中です。ひまわりの植栽に合わせて地域の子どもさんも交えた「心で磨きながら、いのちを輝かせる」ワークショップを開催し、「磨く」という行為が、いのちの大切さについて肌で感じ考える機会となり、そのような継続的な活動によってこのモニュメント空間の光沢が増すことで、三弥さんが生き続けることを願っています。



片山 博詞 プロフィール

- 1963 熊本県植木町生まれ
- 2006 触れる彫刻展 福岡市美術館
- 2008 第42回昭和会展「日動美術財団賞」
- 2010 第18代福岡市長「桑原敬一氏」像
- 2014 「大関魁皇」像 JR直方駅前
- 2014 「青木秀賞奨励賞」福岡文化連盟
- 2015 片山博詞展 直方谷尾美術館企画
- 2019 片山博詞展 福岡女子大学美術館企画
- 2021 GLOCALHOTEL ITOSIMA 彫刻8点
- 2021 「夢馳せる美美子」像 直方須崎町公園
- 2022 「福岡市文化賞」
- 2022 「明日への対話」福岡市南市民センター